

## 第10話 インドの若者たち

デリーではメトロポリタン・ニッコーホテルという小さなホテルに泊まっていましたがスタッフとはみな顔見知りになって家庭的ないいホテルでした。

ある朝早く起きたので散歩に出たら、インド人の若者が寄ってきて何処から来たのかと話が始まりました。これから散歩に行くのだと言ったら一緒に行っていきたいかというので二人で出かけました。彼の故郷や仕事の話に花が咲き帰って来たらのども渴いたのでその辺でお茶でも飲もうかといったら、「ごめんなさい、お金を持っていないのです。」と言うから僕が出すということで小さな茶店に入りました。彼がお腹も空いてそうだったので朝飯もすすめて二人あわせて20ルピー（約60円）位でした。

ところがそれから半年後、やはりホテルから散歩に出たら見知らぬ若者が寄ってきて話が始まりました。そして彼が言うのです。昔このホテルから出てきた日本の人と一緒に散歩に行って朝飯までご馳走になった奴がいるんですよと僕が思わずそれは自分だと言ったら彼の驚き喜ぶこと。まさにこの辺で伝説になっている人と自分は会ったのだという喜びようなのです。

僕の言葉を疑う訳でもなく自分も何かおごって欲しいなどという話では勿論ありません。日本ではあり得ない小さくても不思議な出来事でした。

インドの人の親切さには驚くものがあります。特に日本の女性に対しては。汽車で旅行した時、一緒に行った友達の奥さんが日本に国際電話をかけたいということで駅で探したら何だか広いところに小さな机がポツンとあってそこに電話機が1台置いてありそれでかけられるというのです。係りの男性が机の前に座っており1人が話中で7、8人が順番待ちで並んでいました。我々が行ったら係りの人も含め皆がどうしたと聞くのでこの女性が日本に電話したいのだといったら、日本の国番号を調べて教えてくれるはとにかく親切なのです。

そのうちさっきからずっと一人が話中だったのですが、係りの男性がもうやめろと手を延ばして電話を切ってしまい、切られた方は怒りましたがまったく相手にせず順番待ちの人も先にかけてろというのです。これには僕らもビックリ。

写真はデリーのメリディアンホテルにあるインド料理レストラン「パクアン」です。ここのカレー料理のおいしさを言葉で伝えられないのが残念です。

